第24回 全国川サミットin新潟

発行　第24回 全国川サミットin新潟実行委員会

新潟市土木部土木総務課河川海岸砂防室

〒951-8550　新潟市中央区学校町通1番町602番地1

TEL.025-226-3025

第24回 全国川サミットin新潟

川が創った大地

～水と土が紡(つむ)ぐ歴史～

報告書

平成27年9月4日(金)、5日(土)

全国川サミット連絡協議会

Our Life, with River 河川整備基金　公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています

目次

Ⅰ 開催概要

(1)全国川サミットとは …… 2
全国川サミット開催のあゆみ …… 2
(2)開催テーマ …… 3
参加自治体紹介 …… 4

Ⅱ 実施内容

9月4日(金)

現場視察 …… 10
・新潟市歴史博物館みなとぴあ
・水と土の芸術祭
全国川サミット連絡協議会総会 …… 12
国土交通省講演 …… 14
首長サミット …… 15
歓迎交流会 …… 25

9月5日(土)

ウォーターシャトル周遊視察 …… 26
全国川サミット in 新潟　開会式 …… 27
基調講演 …… 28
学校での取組み …… 29
サミット宣言～閉会式 …… 30

Ⅰ 開催概要

(1)全国川サミットとは

川サミットは、一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを共に進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しています。

全国川サミット開催のあゆみ

開催回	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぶ
第2回	北海道鵡川町	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川 ちょっと素敵な物語～
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	宮崎県北川町	思い出いっぱい 不思議がいっぱい ～川を彩るホタルの光が子供たちへの贈り物～
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ～それは川から始める～
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ～ちょっと素敵な川家族～
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわい川 ～都市の中の川を考える～
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとからのメッセージ ～水は生命の源～

開催回	開催地	開催テーマ
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境
第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～
第15回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らし 川とともに生きる
第16回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威
第17回	群馬県みなかみ町	川を活かしたまちづくり・川と交流
第18回	秋田県横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第19回	兵庫県加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第20回	新潟県長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第21回	茨城県取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第22回	長野県川上村	流域文化に学ぶ
第23回	千葉県香取市	歴史から学ぶ 川と私たちの暮らし
第24回	新潟県新潟市	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～

(2)開催テーマ

川が創った大地 ～水と土が紡(つむ)ぐ歴史～

信濃川、阿賀野川の最下流である新潟市は、２つの大河からの大量の水と土に恵まれ、水と土と共に生き、文化を育んできました。かつて、市内は「地図にない湖」と言われるほど水はけが悪い状況でしたが、これまでの治水事業や土地改良事業により、越後平野は日本有数の穀倉地帯となりました。

新潟の大地を育んできた信濃川・阿賀野川の２つの大河の恩恵を再認識し、川と共生した地域づくりを推進するとともに、全国川サミットを本市で開催することにより、新潟の歴史や文化を全国に発信する機会とします。

●第24回全国川サミットin新潟

開催日　平成27年９月４日(金)～５日(土)　(２日間)
会　場　新潟グランドホテル　他

主催／全国川サミット連絡協議会、新潟市（第24回全国川サミットin新潟実行委員会）
協賛／一般社団法人北陸地域づくり協会、一般財団法人新潟県建設技術センター、新潟県河川協会、大河津分水改修促進期成同盟会、阿賀野川治水協会、信濃川改修期成同盟会
後援／国土交通省北陸地方整備局、新潟県、新潟市教育委員会

参加自治体紹介

秋田県 横手市（よこてし）

秋田県の南部に位置する横手市は、平成17年10月の8市町村合併により人口が秋田県下第2位の都市となりました。

横手盆地の中央に位置し、横手川と流域面積全国13位の「雄物川」が貫流しています。雄物川の河川公園は、平成21年度に国土交通省の「川の通信簿」で最高評価となる5つ星を獲得しました。

増田地区の町並みは、明治初期から戦前にかけて建てられた当時の情景をとどめており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

農業は横手市の基幹産業であり、「あきたこまち」、「りんご」、「山内いものこ」、「ホップ」、B-1グランプリでゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など食においての横手ブランドが揃っています。

増田の町並み

雄物川

福島県 喜多方市（きたかたし）

喜多方市は、福島県北西部、会津盆地の北部に位置し、北西に飯豊連峰の雄大な山並み、東に磐梯山を望む雄国山麓、平地部には田園風景が広がる豊かな自然に恵まれた風光明媚なまちです。

市内には、良質な水と米を原料とした酒造業や、桐材加工・漆器など伝統産業が息づいています。

100軒を超えるラーメン屋が軒を連ねていて「ラーメンのまち」として知られているほか、市内各地で「そば」も栽培されており、地域ごとに特色のあるそば文化が育まれています。市内を歩けば昔ながらの蔵が街並みに溶け込んでいるほか、国県の重要文化財に指定されている文化財も多数存在しているなど、自然・伝統・文化にあふれたまちです。また、花でもてなす観光きたかたとして、三ノ倉スキー場の6.5ha 200万本のひまわり畑は東北一と言われています。

飯豊連峰と菜の花

会津塩川バルーンフェスティバル

茨城県 取手市（とりでし）

取手市は、茨城県の南端部に位置し、南を「坂東太郎」と呼ばれ親しまれた一級河川「利根川」、北から東をその支流の「小貝川」が流れ、江戸時代には高瀬舟が行きかい、江戸への舟運の要衝として栄えました。また、水戸街道の宿場町として、人・物資・文化の交流で賑わいを見せていました。

首都圏から約40km、時間にして約40分という交通の利便性に恵まれた位置にあることから、昭和40年代からの高度経済成長期には、大規模住宅開発により人口が増加し、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。常磐線快速や地下鉄千代田線が取手駅まで乗り入れ、茨城県の南の玄関口となるなど首都圏近郊でありながら、豊かな水と自然に触れ合える都市となっています。

小堀（おおほり）の渡し

とりで利根川大花火

千葉県 香取市（かとりし）

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接しています。東京から70km圏にあり、世界への玄関、成田空港から15km圏に位置しています。北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には関東一の米産地を誇る水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然環境をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿を残し、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されるなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまちです。

歴史的町並みと小野川

水郷おみがわ花火大会

群馬県 みなかみ町（みなかみまち）

みなかみ町は、谷川岳をはじめとする上越国境の山々に抱かれ、その雄大な自然から生じた生命の水をおくる「水と森を育む利根川源流の町」であり、首都圏の水瓶として利根川流域3,000万人の生命と暮らしを支える重要な責務を担っています。日本一流域面積の大きな川「坂東太郎（利根川）」と赤谷川の河岸段丘に沿って発展してきたみなかみ町。谷川岳の「一ノ倉沢・マチガ沢」に代表されるような国内第一級の山岳地や森林、清らかな水が流れ、蛍が舞う美しい田園、町内各地に湧き出る豊富な温泉などの大自然を地域の資源として活かしつつ、交流を通じて基幹産業の観光業と農業を活性化する、まちづくりに取り組んでいます。

たくみの里

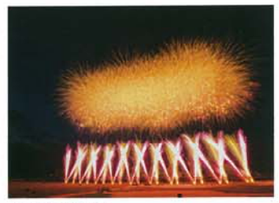
谷川岳一ノ倉沢

利根川でのラフティング

東京都 江戸川区（えどがわく）

江戸川区は東京都の東端部に位置し、西に荒川、東に江戸川など7つの一級河川と海に囲まれた水辺環境の豊かなまちです。全国の親水公園の先駆けとなった古川をはじめ、区内には総延長27kmの親水公園、親水緑道が流れ、潤いのある快適な都市空間を実現しています。その豊かな水辺を舞台に、第11回サミット（in江戸川）、第16回サミット（in荒川）を開催するなど、川とのふれあいや自然環境の保全・創出に努め、新たな都会の水辺環境を創出しています。一方、災害に強い江戸川区を目指し、区民の皆さんと協働でスーパー堤防整備などの治水対策にも積極的に取り組み、安全で安心なまちづくりを進めています。

江戸川区全景


江戸川区花火大会

長野県 川上村（かわかみむら）

川上村は全村が標高1,100メートルを超える高所にあり、千曲川（信濃川）源流の清らかな水と冷涼な気候条件に恵まれた高原野菜産地です。かつては島崎藤村が千曲川のスケッチの中で、「白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つである」と記したほどの、隔絶された大変貧しい地域でありました。

長い間の自給目的の主穀（雑穀）栽培農業に、昭和11年の小海線の開通が大きな変革をもたらし、出荷野菜として白菜の栽培が始まり、キャベツ、大根を組み合わせた農業を経て、昭和20年代半ばからはレタスが試作導入されました。その後、日本人の食生活の変化とともに、県営パイロット事業等の基盤整備事業に積極的に取り組み、生産量日本一であるレタスをはじめとした高原野菜産地を築きあげてきました。近年では、各種スポーツイベントを活用した野菜消費キャンペーンやレタスの海外輸出のほか、後継者の支援を目的とした新婚住宅の建築、訪問看護の充実など新たな村づくりが始まっています。

レタス畑

千曲川（信濃川）の源流

長野県 栄村（さかえむら）

栄村は、長野県の最北端に位置し、千曲川の最下流で新潟県境から信濃川となります。役場の海抜は286mで、長野県内で最も低く、面積は県下77市町村中12番目の広さとなっています。村土の93%が山林原野で、2,000m級の山々に囲まれた山間地であります。冬期間は日本海からの季節風が開田山脈と三国山脈の影響により大量の降雪をもたらし、日本屈指の豪雪地帯であり、昭和20年2月12日にはJR森宮野原駅で7m85cmを記録しています。

本村は、上越新幹線で首都圏まで2時間20分余り、関越自動車道で2時間30分余りと県内でも時間的に近いことから都市との交流が盛んに行われています。

自然資源に恵まれ、豊富な温泉と雪の恩恵によるおいしいお米や野菜、山菜が自慢です。

平成21年2月には「にほんの里100選」に選ばれ、平成26年12月には、隣接の新潟県津南町を含む「苗場山麓ジオパーク」として認定されました。

JA森宮野原駅前の積雪記録柱

河原の露天風呂「切明温泉」

新潟県 津南町（つなんまち）

新潟県の最南端、千曲川が信濃川と名を変えるあたりに位置している当町は、信濃川とそれに合流する志久見川、中津川、清津川によって雄大な河岸段丘が形成されており、段丘面ではかんがい施設が整備された農地が広がり、日本一の魚沼産コシヒカリ、カサブランカに代表されるユリ切り花、アスパラガス、スイートコーン、雪下ニンジンなどの市場野菜の生産が盛んに行われている中山間地域の農業の町であります。

気候は、冬期間が長く日本でも有数の豪雪地でもあります。新緑の春に始まり、ひまわりが風物詩となった夏、紅葉の秋、雪による純白な冬と四季がはっきりとした自然豊かな町でもあります。

昨年12月に長野県栄村と跨る地域「苗場山麓ジオパーク」が認定されました。本ジオパークでは、大地の履歴と「雪」、そこに生きづいた動植物、それらの恩恵を受けて暮らしつづけてきた人々の歴史や魅力を五感を通して学べることが大きな特徴です。

津南町河岸段丘

津南町ひまわり広場

新潟県 十日町市（とおかまちし）

十日町市は、雄大な河岸段丘を形成する信濃川を本流に、国の名勝・天然記念物「清津峡」がある清津川や日本の原風景を感じさせる棚田・里山が広がる渋海川などの支流が流れています。その清らかな水と肥沃な土地から、十日町産魚沼コシヒカリをはじめ滋味に富んだ作物が育まれ、そばや地酒などの銘品も作られています。

川沿いには縄文遺跡も多くあり、新潟県内初となる国宝「火焔型土器」も出土しています。

本市では、現在7月26日～9月13日までの間、となりの津南町とともに「第6回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2015」を開催しています。この芸術祭は2000年から3年ごとに開催されているもので、前回は約48万9千人の入込客数となっています。地域の魅力をアートをとおして引き出していることが、世界から注目を集めるとともに、地域住民やアーティストとの交流は、新たな地域振興策としても効果を表しています。

十日町市街地と信濃川

大地の芸術祭

新潟県 湯沢町（ゆざわまち）

湯沢町は信濃川の源流となる魚野川と清津川が流れ、日本百名山の谷川岳、花の百名山の苗場山など2,000メートル級の雄大な山々に囲まれた自然豊かな町です。加えて開湯800年の歴史をもつ温泉地として名を馳せ、戦国時代には三国街道の宿場町として、近年では川端康成の小説「雪国」の舞台として知られてきました。また上越新幹線と関越高速道路による首都圏との交通利便性を生かし、日本を代表するスキーリゾート地としても発展してきました。2016年2月には、FISアルペンスキーワールドカップが湯沢町苗場スキー場で開催されます。スキー文化のさらなる深化と発展に繋げていくとともに、国内外の様々な団体や企業の皆様との充実した協力関係を築き、「日本発」のスキー&スポーツ文化を創造していきます。

湯沢町全景

紅葉の大源太

新潟県 南魚沼市（みなみうおぬまし）

南魚沼市は、平成16年に旧六日町と旧大和町が合併し南魚沼市となり、平成17年に旧塩沢町が編入し現在の形となりました。

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し上質な水質をもつ「魚野川」の恵みを受け、美味しいコシヒカリの産地として全国でも有名で、六日町は古くは水路の交易や運送の拠点となっていました。

冬は雪が多いときには2メートル以上積り、市内10ヵ所のスキー場をもつスノーリゾートとして多くの人が訪れます。また、直江兼続公生誕の地としても有名で、勉学を学んだ雲洞庵やゆかりのある坂戸山の登山など、観光客で賑わっています。

日本3大奇祭といわれる3月3日の越後浦佐毘沙門堂裸押合大祭や冬の雪まつりなどお祭りも賑わっています。

蛇行する魚野川

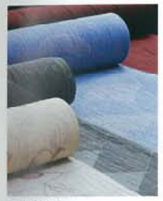
黄金色に輝く南魚沼産コシヒカリ

新潟県 小千谷市（おぢやし）

小千谷市は、新潟県のほぼ中央に位置し、日本一の大河・信濃川が市の南東部から北東部へと流れ、その信濃川が生み出した、全国でも類を見ない規模の河岸段丘の地形が特徴です。

地名の由来は、平安時代の「和名抄」に見られる、古代魚沼郡の四つの郷のうちのひとつ、「千屋郷」が起こりと言われています。近世には街道が出会う立地であったことから宿場町となり、信濃川水運の船着場、小千谷縮の生産地として発展し、昭和29年に小千谷市が誕生しました。

冬は豪雪に見舞われる厳しさと、その雪解け水がもたらす美しい自然や田園のなかで、伝統的な織物産業から鉄工電子産業まで多彩な産業活動が息づいています。また、特産品である錦鯉を平成26年に市の魚に制定しました。


小千谷縮

錦鯉

新潟県 長岡市（ながおかし）

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央をゆったりと流れ、福島県境近くの守門岳から日本海まで市域が広がるまちです。平成17年度に9市町村、平成21年度に1町と合併し、長岡まつりや山古志の牛の角突き、寺泊の海の恵み、四季折々の自然など、個性ある11の地域の魅力が輝いています。平成16年の中越大震災をはじめとした幾多の災禍に遭いながら、長岡の人とまちは「まちとは人が興すもの。まちづくりは、人づくりから始まる」とする「米百俵の精神」で立ち上がってきました。「前より前へ!長岡～人が育ち地域が輝く～」を合言葉に、「市民力」、「地域力」、そして「市民協働」の力を活かし、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、「子育ての駅」など全国にさきがけた人づくり、まちづくりを進めています。

長岡市街地と信濃川（長岡市全景）

長岡まつり大花火大会「復興祈願花火フェニックス」

新潟県 見附市（みつけし）

見附市は、新潟県の「ど真ん中」に位置し、東に丘陵地帯、西は平野部を成し、守門岳に源を発する信濃川水系の刈谷田川が市を南北に分けて流れています。

平成16年の2度の激甚災害の経験から、災害に強いまちづくりには、住民の絆や連携が不可欠だと認識し、新しい地域コミュニティづくりによる協働のまちづくりを進めています。

市民が体の健康だけでなく、生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送ることができる「健幸」を目指した「スマートウエルネスみつけ」のまちづくりは、少子高齢・人口減少社会でも持続できる都市として、国の「地域活性化モデルケース」地方都市型の10都市の一つに選定されました。都市部と村部がともに持続できるまちの実現に向けた総合的な取り組みを進めています。

刈谷田川からの景色

みつけイングリッシュガーデン

新潟県 燕市（つばめし）

燕市は越後平野のほぼ中央に位置し、南端に国上山（くがみやま）があるほかは概ね平坦な地形となっています。市内には日本最長の信濃川と大河津分水路、中ノ口川、大通川、西川など多数の河川が流れており、豊かな水に恵まれた水田が広がっています。また、上越新幹線や北陸自動車道など高速交通の要衝として立地しており、県内有数の工業団地が所在しています。特に、金属洋食器や金属ハウスウェア製品は国内の主要産地となっており、「ものづくりのまち」として発展してきました。

観光では、日本桜の名所100選の大河津分水で行われる豪華絢爛な「おいらん道中」に、全国から多くの人が訪れ、大にぎわいとなります。

燕市全景

分水おいらん道中

新潟県 三条市（さんじょうし）

新潟県のほぼ中心に位置し、東部は緑豊かな森林が福島県境まで伸び、そこを水源とする清流五十嵐川が市域を横断しています。北西部は日本一の大河・信濃川の沖積平野が広がり、桃・梨をはじめとする果樹栽培や稲作を中心とした豊かな穀倉地帯が広がります。

ものづくりのまちとして有名な三条市は、町工場がひしめき、今も鍛冶職人が多く残っています。職人に愛された70年の伝統グルメ「三条カレーラーメン」も健在です。

また、春は新緑とひめさゆり、夏はキャンプ、秋は紅葉、冬は白鳥と四季折々の大自然を満喫できます。

包丁

棚田

新潟県 加茂市（かもし）

加茂市は京都の賀茂神社にその名を由来し、古くから「北越の小京都」と呼ばれています。加茂駅から徒歩5分の加茂山には全国的に珍しい雪椿の群生地があり、市街地を貫流する加茂川は市民の憩いの場となっています。新潟県のほぼ中央に位置し、県都新潟市や新幹線駅へのアクセスも便利です。国の伝統的工芸品の指定を受ける桐タンスは全国シェアの7割を占め、全国的に高い評価を得ています。建具や和洋家具、屏風など木工産業が古くから盛んです。介護と看護を一元的に管理・運営する「加茂市介護・看護支援センター」で、ホームヘルプ・訪問看護・訪問リハビリの無料派遣サービスなどの手厚い介護支援事業を行っており、日本一の福祉のまちを目指しています。

上空から見た加茂市

加茂山公園の雪椿と桜

新潟県 田上町（たがみまち）

田上町は、母なる川「信濃川」とそれに注がれる一級県河川に囲まれた町であり、県都新潟市の南東に位置します。東側は森林地帯、西側は田園地帯、中央部に住宅地。自然の恵み豊かな町で、農産物では米はもちろん、梅、桃、筍などの特産品があります。

田上町には元文3(1738)年の開湯以来、「薬師の湯」として親しまれてきた湯田上温泉が存在し、近代的な温泉郷に生まれ変わった現在も、旧温泉街には昔を偲ばせる風景が点在します。

また、田上町の護摩堂山山頂に広がる「あじさい園」には、赤・青・紫・白など色とりどりのあじさいが約3万株咲き誇ります。晴れた日には越後平野や佐渡ヶ島、粟島までも見渡せます。

護摩堂山頂上より(田上町・越後平野)

あじさい祭り

福島県 湯川村（ゆがわむら）

湯川村は、会津のへそとも言われるように会津盆地の中心に位置しており、東に秀峰・会津磐梯山を仰ぎ、西に春日八郎の故郷会津坂下町、南は白虎隊で有名な会津若松市、北にラーメンで有名な喜多方市にそれぞれ接している交通の要所であります。

本村は、勝常寺を代表とする歴史的遺産と美しい田園環境に恵まれ、「米と文化の里」と呼ばれています。特産品である湯川米は日本一の食味を有しており、米の反あたりの収穫量は県内一を誇っています。

昨年10月に「道の駅あいづ　湯川・会津坂下」が開業し、開業から6ヶ月で入込客数は約50万人を集客致しました。会津地域の情報発信の拠点、地域連携のためのハブ施設の役割を担っています。

湯川村田園風景

道の駅あいづ　湯川・会津坂下

新潟県 阿賀町（あがまち）

阿賀町の面積は952,88㎢と新潟県全体の7.6%を占め、県内では村上市、上越市に次いで3番目に広大な面積を保有する中山間地の町であり、町の94%が森林で県境部には飯豊連峰や御神楽岳を配し、県内でも有数の豪雪地であることから流域の水源涵養地として地域に恵みをもたらしています。

中でも阿賀野川は、水系を通して豊富な水量と山間地の落差を利用した水力発電が盛んで、町内には豊実・鹿瀬・揚川の3つのダムにより5か所の発電所が稼働し、自然を活かしたクリーンなエネルギーの供給に活躍しております。

川を活かした観光面では、阿賀野川ライン下りや奥阿賀遊覧船など日本百景の一つである阿賀野川の渓谷美や四季折々に変化する木々の美しさを存分に楽しんでいただけるほか、支川の常浪川では、かじか突きや鮎釣りが、又、新谷川では、川祭りとして毎年11月上旬に「鮭のつかみ取り」が開催され多くの方に参加頂いております。

阿賀町はこれからも阿賀野川とともに、自然の恵みを子供たちに引き継いでいきたいと願っています。

赤崎山から望む鹿瀬ダム

紅葉の角神湖畔を行く奥阿賀遊覧船

新谷川の川まつり「鮭のつかみどり」風景

新潟県 阿賀野市（あがのし）

阿賀野市は、新潟平野のほぼ中央に位置し、南側に市名の由来となった清流「阿賀野川」が流れ、東側に県立自然公園「五頭連峰」を背にして形成された扇状地に6,500ヘクタール余りの美しい田園風景が広がる自然豊かなまちです。

本市には、県内有数の観光地であるとともに、市民憩いの場として多くの人々から親しまれる「瓢湖」があります。

国の天然記念物に指定される瓢湖は、遠くシベリアから渡来する数千羽の白鳥とともに“白鳥の湖”として全国的な知名度があり、2008年にはラムサール条約登録湿地に登録されています。

また、渡来する白鳥は、瓢湖のみならず周辺の田畑など身近な場所で見られることから、古くから市民に愛され当市の鳥に指定しています。

阿賀野市全景

瓢湖

新潟県 五泉市（ごせんし）

阿賀野川の河口を上り新潟市の境を越えると右側に広がる肥沃な台地、そこが五泉市です。頬に川面を渡る秋風が感じられる今、川沿いでは黄金の穂波が幾重にも広がり刈り取りを待っています。清流と歴史が醸す酒蔵には杜氏が汗し育て上げた日本屈指の甘露が眠り、銀杏色づき勝ち栗弾け、朝焼けの露を集めて大きくなったサトイモが旬を迎えます。清き白蓮は「如蓮華在水（にょれんげざいすい）」と称えられ、吹く風が肌をさすころ白きレンコンが顔を出す。どれもが阿賀の恵み、清流の恵みです。

3,000本のソメイヨシノ、村松公園の桜の花びらが風に乗り早出の川に運ばれて阿賀野川に浮かぶころ、縄文の大地に伏せた5色の幟（のぼり）が眼前を覆う、県下に名立たるチューリップ畑。今では五泉市の旗印となっています。隣接した牡丹の園には120品種5,000株の花が咲き、近郊また県外から毎年20万人が花々に集います。

百華織成（ひゃっかおりな）すファッションタウン、きなせや、きなせや、世界に着せるニットの町。我がふるさと歴史と文化の五泉市です。

五泉市全景

善願橋から見下ろす早出川の清流

新潟県 新潟市（にいがたし）

新潟市は、日本一の大河「信濃川」とそれに次ぐ水量をもつ「阿賀野川」の二つの母なる川から育てられ、水辺と共に歩み、古くから湊町として栄えました。世界に開かれた都市、東アジアに向き合う日本海拠点都市として、2007年4月に本州日本海側初の政令指定都市に移行しました。

本市は、整備された高速道路網や上越新幹線により首都圏と直結しているなど、陸上交通網が充実しているほか、国際空港・港湾を擁し、国内主要都市と世界を結ぶ本州日本海側最大の拠点都市として高次の都市機能を備えています。一方で、国内最大級の水田面積を持つ大農業都市でもあり、両大河により形成された「越後平野」は、米や野菜、果物、畜産物などの一大産地となっており、食料自給率63%という高水準を支えています。また、ラムサール条約登録湿地である佐潟や福島潟、鳥屋野潟といった多くの水辺空間や里山などの自然に恵まれています。

新潟市街地と信濃川

新潟市の田園

Ⅱ 実施内容

9月4日(金)

時　間	内　容	会　場
13：00～15：00	**現場視察** みなとぴあ 水と土の芸術祭	みなとぴあ 旧二葉中学校
15：10～15：40	全国川サミット連絡協議会総会	新潟グランドホテル
15：40～16：10	**国土交通省講演** 演題「大地を創った川と地域づくり」 国土交通省　水管理・国土保全局 河川環境課長　　小俣　篤　氏	
16：10～17：50	首長サミット	
18：00～19：30	**歓迎交流会** 歓迎アトラクション（古町芸妓）	

現場視察

新潟市歴史博物館みなとぴあ　水と土の芸術祭

第24回全国川サミット in 新潟では総会に先立ち現場視察が行われました。川と歩んできた新潟市を多面的に見せる新潟市歴史博物館みなとぴあと、この時新潟市で開催されていた「水と土の芸術祭」から、ベースキャンプの旧二葉中学校を訪ねました。

新潟市歴史博物館みなとぴあは、明治の開港の際に税関が置かれた信濃川左岸、川港の往時をしのぶ公園の中にあります。

みなとぴあ内の展示。砂丘列に阻まれて信濃川の水が日本海に出られず、平野にはたくさんの支流と潟があったかつての様子です。

大河津分水の開削以降も平野の水位は高く、排水ポンプが整備される昭和30年代までは、舟で田んぼの作業をしていました。

みなとぴあ近くに再現された堀。昭和39年に全て埋め立てられましたが、江戸時代から市街に張り巡らされていた堀にはたくさんの舟が行き交いました。

新潟の土と水について過去の蓄積から未来を考える新潟市環境資源目録（磯辺行久）。

各地から採集した土を展示するDirt Stage（世界土協会）。

西蒲区伝統の鯛車。

新潟の水と土にまつわる歴史をフロッタージュで掘り起こした水の記憶2009～酒百宏一。

全国川サミット連絡協議会総会

実施内容　第一日目2015年９月４日(金)　　会場:新潟グランドホテル

国内河川で流量一位の信濃川、流量二位の阿賀野川河口を有する新潟市。信濃川に架かる国の重要文化財萬代橋を望む新潟グランドホテルを会場に全国川サミットが開催されました。

連絡協議会総会は前年の第23回全国川サミット開催地である香取市、本開催地の新潟市から報告と議案を提出。本サミット宣言を含め全て原案通り承認されました。また、次回開催地である四万十市中平正宏市長が挨拶。四万十川の概要を紹介しつつ「人の暮らしを守るにはどうしてもコンクリートがいるというのが地方の現実です。みなさまのお越しをお待ちしています」と述べました。

篠田　昭　新潟市長

藤山　秀章　国土交通省北陸地方整備局長

中平　正宏　高知県四万十市長

高橋　三義　新潟市議会議長

寺田　吉道　新潟県副知事

来賓紹介

藤山　秀章	国土交通省北陸地方整備局長
寺田　吉道	新潟県副知事
小俣　　篤	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長
関　　克己	公益財団法人河川財団理事長
入江　　靖	国土交通省北陸地方整備局河川部長
日下部隆昭	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所長
井上　清敬	国土交通省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所長
石川　俊之	国土交通省北陸地方整備局阿賀野川河川事務所長
安井　辰弥	国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所長
藤塚　惣一	新潟県土木部長　代理河川管理課長

平成27年度　全国川サミット連絡協議会総会　次第

日時：９月４日午後３時10分～
場所：新潟グランドホテル
悠久の間

1　開　　会
2　会長あいさつ
3　来賓祝辞
4　報　　告
　参加状況等について
5　議　　題
　1）報告事項
　　・第１号　第23回全国川サミットin香取　事業報告について
　　・第２号　第23回全国川サミットin香取　収支決算について
　2）協議事項
　　・第１号　第24回全国川サミットin新潟　事業計画（案）について
　　・第２号　第24回全国川サミットin新潟　収支予算（案）について
　　・第３号　第24回全国川サミットin新潟　共同宣言（案）について
　　・第４号　今後の全国川サミット開催予定について
6　その他事項
7　閉　　会

国土交通省講演

大地を創った川と地域づくり

国土交通省水管理・国土保全局　河川環境課長　**小　俣　　篤** 氏

イントロダクション　信濃川と地域の関わり

平らで肥沃な大地が広がる新潟平野が新潟の特徴。この平野の真ん中を縫っているのが信濃川。恵みをもたらす一方で難しい土地でもある。殊に明治29年横田切れは現在の信濃川治水の契機になった大洪水。その後も大正6年、昭和36年と大きな水害があった。信濃川は長野県の水を集めてさらに新潟県南部の山間部からも大きな支川が入っており、それらが一気に新潟平野へ流れ込んでくる。どうしても水が溢れてしまう川の制御の難しいところ。

これまで行われた対策

・300年前（1730年）の松ヶ崎開削　信濃川と阿賀野川が交わらないようにする

・近代の大河津分水路（1922年開通）　新潟平野の入り口で直接日本海へ放水

・関屋分水路（1972年開通）　都市部に入った流水を直接日本海へ放水し水害を制御する

近年では平成16年、23年に大きな水害が発生。地域と川との関わりは、普段は親しいものにしつつ、災害の歴史も忘れないという関係にしていきたい。

現在の取り組み

川と地域の人々は深い関わりの中で暮らしてきた。関わりを今風にどうやって取り戻していくか。ここ20年くらいの我々の取り組みは、治水一辺倒で「地域の財産」を損なってきたのではないか、治水をやりながら地域の財産を取り戻すということ。川を川らしい姿で自然な空間を増やす。一挙両得の取り組み。

人口減少社会で地域の魅力を取り戻し、地方創生を応援してゆくような行政。

・渋谷川（東京都）　安藤広重の絵にも描かれ唱歌「春の小川」のモデルになった川を地域の財産にしてゆく取り組み

・大橋川(島根県)　松江城の外堀になっていた川をかつてのように舟遊びができる川へ。大橋川の流水量を増やし(国)、ヘドロを除去（県）し、流入する下水を整備（市）し、遊覧船が浮かぶ川へ。

・豊岡市　コウノトリの餌になるドジョウを増やすため川と河川敷との境界をなだらかにして湿地を増やす。コウノトリが舞う地域というブランドへ。現在野田市ほか南関東地域にも取り組みが拡大。

・太田川（広島市）　やすらぎ堤（新潟市）　都市のいこい、賑わいの場として水辺空間の規制を緩和。河川敷などの国有地で、地域の人の同意の下で民間の営業行為が可能に。オープンカフェ、レストランでにぎわい。緩やかな勾配の堤防で地域の方が使える空間へ。

かわまちづくり

川が地域の皆さんに役立てるような取り組み。国、県、市、地域の皆さんと一緒になって河川空間を活かし、まちづくりに組み入れてゆく取り組み。どうすれば実現できるかは、ぜひ提案、注文をしてほしい。

首長サミット

新潟県新潟市　　篠田　　昭　市長

信濃川は江戸時代、左岸を長岡藩、右岸を新発田藩が管理していました。両藩は大変仲が悪かったということです。残っていたら新潟市は大変な水の都だと思いますけれど、300年ほど前は信濃川と阿賀野川が合流してから日本海へ注いでいた。先ほど紹介された松ヶ崎開削は、阿賀野川の水を排水したい新発田藩が、一定以上の流水があった時には日本海へ水を流す放水路を作ったが、当時はコントロールする技術がなくて作った翌年の雪解け水で崩壊し、開削した放水路が阿賀野川本流になってしまったというものです。

このため新潟湊は水深が浅くなって港の機能が損なわれた一方、新発田藩では水位が下がって農地が増えた。川港の機能と農業に対する影響、これにどう折り合いをつけるかということでこの地域は常に苦しんできたわけですが、明治29年の横田切れで、これはもう分水路を作らなければ駄目だと、当時東洋一の大工事といわれた大河津分水ができたわけです。大河津分水は今年、当時の掘削技術でやりきれなかった河口付近の掘削をやっていただくということで大変感謝申し上げます。

新潟市の懸案の一つは、信濃川から出て信濃川に戻る中ノ口川で、これは県の管理ですが、国の一括管理でお願いしたいというのが沿川市町村の願いです。

一番ありがたいのはやすらぎ堤を作って頂いたこと。これからはまちなかアウトドアということで、日常的に川を楽しむということに取り組んでおります。

秋田県横手市　　小野　梶利　建設課専門監

第６回と第18回の全国川サミットを開催いたしました秋田県の横手市です。

横手市は、秋田県の南部に位置しており、市内には横手川と平成21年度に国土交通省の「川の通信簿」で最高評価となる５つ星を獲得した雄物川が貫流しております。

横手川では全国線香花火大会や小学生を対象に横手川水辺のふれあいフェスタなど様々なイベントを開催しております。また、雄物川の河川公園では、「わくわくフェアinおものがわ」を開催し、イワナの掴み取りやカヌー体験などのイベントに家族連れを中心に多くの人出で賑わい、人々の交流、心のふれあいの場となっております。

観光におかれましては、400年以上の歴史を持つ冬の伝統行事である「かまくら」は、水神様を祀る小正月行事として毎年２月15日・16日に開催しており、街中にかまくらの灯りが燈りますと幻想的な世界を感じることができます。また、平成25年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました増田地区の町並みは、明治初期から戦前にかけて建てられた当時の情景を観ることができます。

基幹産業であります農業におかれましては、「あきたこまち」、「りんご」、「山内芋の子」、「いぶりがっこ」、横手産ホップで造られました「キリン一番搾りプレミアムビール」、Ｂ－１グランプリでゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など、たくさんのおいしいものが揃っておりますので、是非、横手市に足を運んでくださるようお願いしまして、紹介とさせていただきます。

福島県喜多方市　山口　信也　市長

本市は山形、新潟、福島にまたがる飯豊連峰と、磐梯山から流れる水と土の恩恵に恵まれた米作地帯です。清涼な湧水も多く、江戸時代から酒造りが盛んで現在でも10軒の酒蔵があり、今年はイギリスで開かれたインターナショナルワインチャレンジsake部門で最高賞を受賞しました。

川を考える上で大切なのは山を大切にすることです。しかし、現在では、山へ入ると、藤や葛の蔓が伸び放題で間伐もできない。それ以前に木材価格が下がりすぎて林業家がいないし農家もやれないというのが現実です。

私は福島県の森林審議会委員を務めており、その中でも話しましたが、近年、山林の樹木をエネルギーとして利用する木質バイオマスがあります。それ自体は良いのですが、伐採した後に植林しないためこのまま20年30年経ったら災害発生源になるのではと、背筋の寒い思いがします。昔から山は「伐ったら植える」と言われています。林野庁にも申し上げていますが、ぜひとも国で対策を図って頂きたい。

水力の電源開発では、福島県は阿賀川と只見川でダムの開発が進められ明治の近代化以降、都市に電力を供給して参りました。今後は、エネルギー供給だけでなく、環境保全、災害対策の面も考えなければなりません。

最後に、50年ほど前に市内を流れる阿賀川のルート変更を行ったところ、旧河道が汚水溜まりになってしまいました。先ほどお話頂きました松江のように、水を通せば憩いの場になりますので、是非とも対策をお願い申しあげます。

茨城県取手市　藤井　信吾　市長

第21回を取手市で開催し、こちらにはその際お越し頂いた方もおられます。ありがとうございます。私は過去の川サミット全８回に欠かさず出席しております。真面目に出席するとご褒美があるのだなと思ったのは、再来年四万十市さん。これまで車か新幹線で行っておりましたが、初めて海を渡れるんだなと。今後も北海道や九州にもどんどん参加して頂きたいと思います。

取手市は川の恵みを活かした穀倉地帯であるとともに、首都圏のベッドタウンとしても発展しております。平成21年から、取手から銚子に至る周辺市町村に声を掛けて利根川舟運・地域づくり協議会というのを立ち上げまして、舟運の可能性、横の連携、環境の組み立て、特産品の交流などを行って参りました。平成23年までは内閣府の地方の元気再生交付金が頂けたので色々な実験ができたのですが、現在なかなかお金が来ない。国交省からでなくていいんですが、市町村が横に連携する際の種金があるとありがたいところです。

利根川は明治に河川改修をやりましたが、その際千葉県側に飛び地ができまして、そこで渡船をやっています。現在利根川には３箇所あって取手市には１箇所。車を使えばいらないのですが、観光資源にもなるため年間1,500万円かけて続けております。今後ともよろしくお願いします。

千葉県香取市　旭　健一　副市長

昨年10月の第23回全国川サミットin香取は皆様の多大なご協力により盛大に開催され、本年の新潟市開催に無事引き継ぐことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

香取市は平成18年３月に１市３町が合併して誕生しました。

先の東日本大震災では歴史的町並みも含めて6,000棟、公共施設などで200億円と甚大な被害が出てしまいました。現在は災害復旧工事が済み、観光入り込み客はようやく震災前の水準に戻ったところです。

市の北部を利根川が流れ、舟運によって物資輸送の拠点として発展してきました。肥沃な土と農業用水など、利根川の恩恵に与ってきました。平成23年３月に開業した水の郷さわらは、新鮮な野菜を販売する道の駅と舟遊びができる川の駅との複合施設となっています。年間120万人以上が訪れ、関東道の駅アワードのプレミアム30にも選ばれました。利根川支流の小野川周辺には伊能忠敬旧宅が国史跡として保存されており、重要伝統的建造物群保存地区にも指定され歴史的町並みの保存に取り組んでいます。このエリアは今年６月にはミシュラングリーンガイドジャポンでも取り上げられ、国内外から多くの方にお越し頂くことを期待しています。

今後も川の恵みに感謝することを忘れず地域づくりに活用し、治水に配慮しつつ川と共生するまちづくりに取り組んでいきたいと思います。

群馬県みなかみ町　鬼頭　春二　副町長

利根川の源流に位置して首都圏約3,000万人の命と暮らしを支える最初の堰を目指している地域でございます。観光が主産業で、18か所の宿泊温泉施設があり、年間宿泊者はおよそ110万人。日帰り客を含めるとおよそ400万人の方に訪れていただいています。

川との共生ということで２つ申し上げます。まず１つはアウトドアスポーツです。ラフティング等のスポーツが盛んで首都圏から多くの若者が訪れて町の活性化に貢献しています。町内には28社のアウトドア関連事業社が存在しています。安全と自然環境の保全に配慮したアウトドアスポーツ振興のため、みなかみ町アウトドアスポーツ振興条例を制定し、アウトドアスポーツ適地にふさわしい町づくりに努めています。この条例は主に町の責務、事業者の責務、安全基準、イベントの承認等について定めておりまして、条例に基づく取り組みとしてはラフティング組合が地域住民と協力して河川の清掃や環境美化を行うことなど源流域にふさわしい環境づくりを行っています。またアウトドア事業者、県、国交省など関係機関とともに利根川適正利用協議会を組織して適正利用と保全に取り組んでいます。

２つ目として利根川沿いの道の駅水紀行館を拠点に散策ガイド活動をしている水上観光ガイド協会についてお伝えします。水紀行館には淡水水族館が併設され、周辺には水辺の他ここを訪れた与謝野晶子の歌碑公園があります。コースは源流域特有の景勝地が多く、この景観とともに歴史、生活文化を伝えるなど、現在19名の会員が観光客と交流しています。

以上、今後も利根川の適正利用と保全に努めて参りたいと思います。

東京都江戸川区　深野　将郎　土木部長

この首長サミットに先立ちまして、みなとぴあや水と土の芸術祭で新潟の歴史文化に触れさせて頂きました。ありがとうございました。江戸川区は、江戸川、荒川、中川の他、全７河川が流れており、過去第11回で江戸川、第16回で荒川をテーマに川サミットを開催させて頂きました。最近では、葛西臨海公園が、今年何十年か振りに海水浴ができるようになり、水辺環境もだいぶ良くなってきています。

本区は江戸川、荒川の最下流域でかなり地盤が低く、加えて新潟市長さんからもお話がありましたが、昭和30年代に天然ガス田の開発により2.4m地盤が下がってしまい、満潮時では区の７割が海面より低い地勢です。そのため周囲は堤防に囲まれ、その堤防により安全を保っているという状況です。江戸川沿川では国土交通省のスーパー堤防と一体となったまちづくりを行っており、堤防を強化しながら安全なまちづくりに取り組んでいます。

環境面では、もともと420kmほどの水路がありましたが、昭和40年代の急激な都市化で水路はどぶ川化しました。これら水路を埋めて道路に変えていこうとも考えましたが、区民から水路として再生しようと声が上がり、昭和48年に親水公園として全国初となる古川親水公園をつくりました。以来半世紀に渡って親水公園・親水緑道を整備し、水と緑のネットワークを形成してきました。そして、ただ行政がつくるだけではなく、ボランティアや地域の方と一緒になって維持と管理を行ってきました。その結果今年６月、この半世紀の取組みが評価され、「美し国づくり景観大賞」を受賞しました。

区の中央部に、旧江戸川と荒川をつなぐ新川という川があります。この新川は、江戸時代に塩の道として掘られた川ですが、環境整備が整い約1,000本の桜を植えて川の再生をしたところであります。来年４月には「全国さくらシンポジウム」を開催することが決まっています。足をお運びいただけるようでしたら、江戸川区の水辺の環境をぜひご覧いただきたいと思っております。

長野県川上村　川上　芳夫　副村長

第22回のサミットを開催させて頂きました川上村でございます。川サミットは開催地が次の次の開催地を指名することになっておりまして、川上村が今回の新潟市長さんにお願いした次第でして、本日の開催まことにありがとうございました。

今朝７時10分ごろ出発しました。千曲川源流からここまでは367kmとなっておりますが、車では280kmくらい。陸路で行く源流から河口まで、川上村から新潟市まで流れているんだなぁとその道のりは感慨深いものがありました。江戸川区さんが今ほどお話になりましたが、荒川も川上村から流れています。最上流にいる者としてきれいなまま下流へ、そして未来へ流していきたいと、そのような責務を感じています。

村は今レタス、キャベツの収穫最盛期ですが、一つ自慢をしたいのは、ただいま国際宇宙ステーションに川上村出身の油井亀美也君が行っております。７月23日のソユーズ発射には私も立ち会ってきました。１キロの地点からの飛び立つ瞬間は今思い出しても感動でありました。12月中旬まで滞在の予定で９月29日には川上村と宇宙ステーションの間で通信をする予定であります。人口4,000人の村で、世界で通用する宇宙飛行士を出したというのは本当に誇りでありますし、やはり人と水は高いところから出るんだなと、改めて思った次第であります。今日は皆さんと色々な話ができたらと思っております。よろしくお願いします。

長野県栄村　島田　茂樹　村長

川上村からお話がありましたが、川上村が千曲川最上流で私どもの村は千曲川最下流。同時に信濃川最上流となるわけであります。今日はおいでになっていませんが隣の津南町さんから名前が変わります。

平成23年３月11日の東日本大震災発生から13時間13分後、12日に震度６強という大変大きな地震がありました。一番遠い集落は役場から40km離れているという広い村ですが、この時は遠方の集落には被害が少なくて良かった。

村内の千曲川の総延長はおよそ10kmですが、上流に東京電力の西大滝ダムがありまして、そこで水を全部取られてしまって村では千曲川の水は一滴も使っていません。数年前に東京電力と話して毎秒20t流して頂くようになりまして、先ほどみなかみ町長さんが話しておられたラフティングをしたいということでみなかみ町に視察に行ったりしました。水が少ないながら、始めたところであります。

日本百名山の一つ苗場山の麓に秋山郷というところがありますが、秋山郷へは新潟県を25km通らないと行けない場所で、平成18年の豪雪では一週間孤立しました。25kmは新潟県の地籍ですから「お願いします」と言うだけで何もできず、マスコミに情報提供するのみでありました。JR飯山線森宮野原駅で昭和20年２月に7.85mという積雪記録があります。JRが駅ごとに何か名物をという時、何もなかったもので駅に7.85mの標柱を、平成８年に建てました。JRの駅のあるところでは日本一の積雪です。

苗場山が昨年日本ジオパークに認定され、57サイトを観光資源にと取り組んでいるところです。新潟県では佐渡と糸魚川は、世界ジオパークですね。その関係で新潟で世界ジオパークが開催されるそうで、準備も進んでいると思います。どうぞよろしくお願いします。

新潟県湯沢町　半澤　誠治　副町長

湯沢町は群馬県との県境に位置しており人口が8,177人という小さな町であります。三次産業の従事者が81%と、観光とリゾートマンションの町でございます。周辺は2,000m級の山々に囲まれ、信濃川水系の魚野川と清津川は本当に急峻な河川となっております。

町の川の利用は、電源開発（株）の160万kwの揚水式発電所の他、３つの水力発電所と、観光利用ではキャンプ場、フィッシングパーク等があります。これまでは家族連れの利用が多かったのですが、近年は首都圏の学習塾やスポーツクラブが子どもたちを連れて自然体験として川遊びを楽しんでおります。町内の子どもがプールで泳ぎ都会の子どもが川で泳ぐという現象が起きています。

信濃川水系の最上流の責任として、下水道の放流水質を基準値はBOD20mg以下のところ、特定環境保全公共下水道においては、半分の10mg以下として浄化センターを運営しています。湯沢町の現在の下水道普及率は84.7%ですが、100%を目指して整備しています。

ご存じかと思いますが、８月６日に都内の小学一年生が亡くなるという事故がございました。私どもが知る限り、湯沢町では川遊びで亡くなったという事故は初めてでした。観光の町として、こうした事故のないよう取り組むとともに、川には危険もあるんだということを周知して参ります。

新潟県南魚沼市　井口　一郎　市長

合併して10年ちょっとで知名度がなく、全国的には湯沢町の隣ですと申し上げると分かって頂けます。八海山（酒）と南魚沼産コシヒカリは知っているんだけれど産地は知らないという方が多くて、その意味では生産者に感謝しています。今の人口は59,000人前後です。

魚野川が南北を縦断し、東側の急峻な山間部からは登川、三国川、宇田沢川、水無川という一級河川が魚野川に注いでいる。河川環境の話になると、今日は四万十市さんがお越しで大変うれしいのですが、魚野川はAAランクの評価で「四万十川と同じです」と宣伝させていただいております。

川の活用ということでは、魚野川を抜いたら町の成り立ちが語れないというくらいです。昔は魚野川舟運が盛んで六日町はそこから栄えました。昭和44年には数名の死者の出る大水害を経験し、50年代には市街地が２階近くまで床上浸水。この時はちょうど大相撲の巡業が来ておりまして、お相撲さん方がそれぞれ贔屓のところへ泊まっていて、水害の時に家具を全部二階に上げてくれて大変助かったという逸話があります。激甚災害にも指定され、その後大きな水害には遭っていません。

川はまさに命の源。河川敷では水辺の学校というのをやっておりまして、８月には鮎の丸かじり大会。5,000匹の地鮎を用意して炭火で焼いて楽しむ催しで3,000～5,000人の方に来て頂いています。こうしたことができるのも河川整備をしていただいたお陰でして、他の河川でもお年寄りのグラウンドゴルフが盛んで河川敷にグラウンドゴルフ場を整備して頂いています。

そして川の恵みとしてはなんと言っても魚沼産コシヒカリでして、用水は魚野川始め先ほど申し上げた川からの取水です。なぜ南魚沼産コシヒカリが美味しいのかということについてある学者さんが言うのは、源流の山々には針葉樹が少なく広葉樹が多い。落葉したところへ雪で圧縮され、木の葉のミネラルが絞り出される。それでこの川はミネラルが豊富なんです。もちろん生産者の技術や寒暖差などの理由もありますが、ミネラル分の豊富であることが他とは違う大きな特長だそうです。

これからさらに川と親しむような取り組みを進めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新潟県長岡市　中野　一樹　技監

本日は森市長が出席できず、皆様によろしくと申しておりました。長岡市は中央を信濃川が貫通しており、多くの中小河川が市街地を経て信濃川に流れ込んでいます。近年の集中豪雨では床上浸水など大きな被害が発生し、改めて河川の適切な管理の必要性を痛感しました。下流部にある大河津分水路の抜本的な改修は、越後平野を水害から守る柱であり、篠田市長が会長をされている大河津分水改修促進期成同盟会や信濃川改修期成同盟会など流域自治体が一体となった要望が通りまして、今年４月に事業化となりました。工事の地籍は大部分が長岡市であります。今後も全面的に協力して参りますのでよろしくお願いします。

当市と川の関わりはなんと言っても花火です。幅１kmに及ぶ広大な河川敷が打ち上げ会場になっていまして、昨年堤防の強靱化工事によって10haの河川敷に新たに４万人分観覧席ができました。今年は戦後70年の節目でスケールアップしたこともあり、２日間で104万人という最大の観客で埋まりました。

また８月15日にはハワイホノルルで戦争殉難者の慰霊と恒久平和、青少年の成長を願って花火を揚げました。アメリカでは花火は祝祭を彩るものであって、なんで慰霊なの？ということでしたが、当日集まった２万8,000人の方々は花火で夜空に献花するということをご理解頂きました。

信濃川支流魚野川に掛けられた川口やなは平成23年の豪雨でいまだ復旧できていません。国土交通省の皆様にはご尽力頂いているところですが、地域住民の熱望を受けて、改めて要望書を提出しているところです。長岡市は全面的に協力して参りますので、かわまち事業の事業化を是非ともよろしくお願いします。

新潟県燕市　鈴木　力　市長

燕市と言えばご案内の通り金属洋食器生産地として有名なところで、お手元のコーヒースプーンも、裏を見て頂くと、燕市民はこういうところで洋食器を裏返して燕製品かどうかを確認してほっとする習慣がありまして、私もすぐ「サクライさんのニッケルシルバーだな」と確認したところです。国内シェアは95％の産地でございます。ものづくりが発展したのには、大河津分水路ができて洪水が減ったことが寄与しています。大河津分水路に守られて産業が育ったわけですから、大変なストック効果がありました。大河津分水路という地域資源を活かして観光へも取り組んでいます。完成を記念して堤防に植えられた２万本の桜がありますが、その沿道でのおいらん道中は今年73回を迎えましたし、分水路を活かした交流人口拡大も目指しています。

私が就任してから取り組んできたことは大河津分水路とともに発展してきたということを、子どもたちにしっかり伝えていくということです。合併して他の旧市町のことをまだあまり知らないということでカルタを作ったんですが、公募で選んだ46枚のうち川に関係するものが10枚ほどあるんです。「昔も今も洪水守る可動堰」とかですね。

横田切れは来年発生から120年経ちますので、国土交通省さんと何かやらなければと思っています。広報つばめの子ども版で、全部子どもたちに作ってもらうというのを年に１回やっているんですが、今回は大河津分水路を取り上げるべく取材を始めてもらっています。それから燕つながりでヤクルトスワローズと交流し、スワローズのキャンプ地と都市交流をしているのですが、この中の一つである松山市が大河津分水路工事の陣頭指揮を執った宮本武之輔さんの出身地ですので、生誕の地松山と功績の地燕で交流をやっていくということを始めております。

新潟県加茂市　吉田　淳二　副市長

北越の小京都と言われておりまして、加茂の名は京都の賀茂神社に由来しています。加茂川は福島県境の粟ヶ岳を源流に18kmで信濃川に合流する短い川です。昭和42、44年に市街地が壊滅するくらいの大水害が起こりました。現在は国県関係各所のお陰で幅も深さも当時の二倍にしていただき、市街地は多少の雨でも安心しておるところです。最近はしかし雨の量も増えまして、大雨が降ると信濃川から逆流してくる心配が起きております。それで堤防を１mかさ上げしていただいています。下流では樹木も茂り、わがままを言うようですが河口付近の泥を上げていただきたい。

市民の加茂川への思いは強く、６月には市民一斉清掃を行っています。８月には河川敷で二つの仮設橋を作って大盆踊り大会を開催。市街地はたった２kmですが、その間８本の橋が架かっており、それを利用して延長２km以上のナイアガラ花火をやったりしています。市民一同加茂川を愛しております。今後ともよろしくお願いします。

新潟県田上町　佐藤　邦義　町長

田上町と言ってもなかなか、新潟の人でも「どこにあるの？」となります。明治に４つの村が合併し、昭和になって町政を敷きましたが合併は明治以来しておりません。

小さな町ですが西側は信濃川沿いに集落が張り付き、東側は丘陵地帯。その丘陵から信濃川までは１kmほどなのですが、この中に４本の一級河川がありまして、雨が降ると一気に流れるものですから溢れてしまう。就任したのが平成10年の６月でしたが、二か月後に横山川が溢れて床上浸水、平成16年には才歩川が信濃川の逆流で床上浸水。就任からほとんど災害対策をやってきたようなものです。関係各所のご尽力のお陰で、今ではほとんど起きなくなっています。

かつて新潟平野は大和朝廷の影響はなかったと言われておりましたが、現在行われている行屋崎遺跡の発掘で大和朝廷の影響があったと証明されました。この遺跡は才歩川のほとりにありまして川とともに歩んだ地域であると改めて再認識しているところであります。

福島県湯川村　大塚　節雄　村長

会津若松市と喜多方市との中間に位置し、面積は福島県で一番小さい16平方kmです。学校の屋上に上がりますと端から端まで全部見渡せる、山も丘もない真っ平らな土地です。阿賀川を含む３本の河川で囲まれ、真ん中にもう１本。昔は年に３回くらいは水害が発生していた。

今はおかげさまでそのようなことはありませんが、水害が運んでくれた肥沃な土に与っていたという一面もありまして、反収は福島県一の625kgです。米でふるさと納税をやりましたが、およそ9,000人の方から３億3,000万円の税収がありました。これを農業振興に役立てて行きたいと思っています。

昨年10月に国交省のかわまちづくり支援制度を利用し「人の駅・川の駅・道の駅事業」というのを始めました。昨年の10月２日にオープンして月に10万人のほどの方が来場しています。私ども一村だけでなく、対岸の会津坂下町と一緒にやっております。災害時のストックや対策を講じる建物であり、平時は親水公園。２万平米ほどのスペースで催しもできるようになっています。会津盆地の真ん中にありますから、会津の物産を広く集めて販売しています。

もう一つ国交省の事業を利用して桜を植えた堰堤公園を整備しました。その隣に40戸ほどの宅地を造成したところ、大変人気が高く早々に完売しました。それと支流で日橋川という、喜多方市との境界になっている川があるのですが、ここは大正までは新潟からの帆掛け船が上がってきたところでして、これを顕彰してまつりを行っています。今までの歴史の中で日橋川を大切にしていきます。

周囲を河川に囲まれていることを村の特色として活かしていこうと、河川敷にサイクリングロードを整備しているところです。延長は50kmです。今後も河川を活かして村づくりをしていこうと考えています。

新潟県阿賀町　波田野正博　副町長

喜多方市長さんからお話がありましたように、福島県では阿賀川、新潟県では阿賀野川。阿賀町は阿賀野川最上流の町になります。平成17年に２町２村が合併しましたが、うち３町村が「川」が付く名前でした。人口は12,358人ですが952.88平方kmで新潟県で３番目に面積の大きい市町村です。明治19年に新潟県に編入されるまで、およそ700年に渡って会津領でありました。阿賀野川の舟運を通じて、会津と越後の結節点、要衝の役割を担ってきました。

ボート競技が盛んな町としても全国で知られ、漕艇場は平成20年に整備し、21年に国体、24年にインターハイ、25年には全国市町村レガッタの競技場として多くの方にお越し頂き、阿賀野川を楽しんで頂きました。また、阿賀野川レガッタは今年23回目を迎えます。機会がありましたらぜひお越しください。

町としては、今後も上流域の責務としてきれいで安全な水を下流域の皆様にお届けしたいと思います。

新潟県五泉市　伊藤　勝美　市長

阿賀町の下流に位置しています。信濃川水系と阿賀野川水系の両方を持っていまして、信濃川水系では能代川、阿賀野川は本流と支流の早出川。これらが市街を分断して流れています。平成に入りましても12、16、23年に、この河川全てやられました。復旧事業に精力的に取り組んで頂きまして、五泉市内は本年度中に工事が完了します。感謝申し上げます。

申し上げましたように、市街に二つの水系が入っているものですから、雨水排水も入り組んでおりまして「これはこっちに流せば早いんだがなぁ」というような状態です。これにつきましても順次整備してゆくべく、ご協力をお願い申し上げます。

五つの泉というくらいで、時には多すぎる水に恵まれて、農業と繊維産業を育ててきました。殊に織物は、五泉では白羽二重を織っておりまして、お寺様の袈裟や黒紋付きは五泉の白生地が使われています。残念ながら五泉の名前が残らないのですが、西陣も生地は五泉です。その後メリヤスからニットと染めへ。来月フィレンツェにニット技術者が行きますけれど、工程全部を見ることができるいわゆる匠はもはや日本では五泉にしかいないというようになっています。匠の技術を守りながら、今後もニットを産業の柱として大切にして参ります。

新潟県阿賀野市　田中　清善　市長

阿賀野市は、平成16年の合併の際、市民から新市名を公募したのですが、農業にも飲料水にも阿賀野川の水を使い文化を育んできました。そういうことから、公募の中から「阿賀野」を選びました。時々阿賀町さんと間違われますが、同じ川を通して繋がっておりますから、間違われてもさほど問題はないと思っておる次第です。

川サミットということで、お集まりの自治体はいずれも自然の豊かなところでありますが、阿賀野市も大変豊かな自然に恵まれたところであります。市の中心部には瓢湖という湖がありまして、冬になるとシベリアから6,000羽の白鳥が渡来します。瓢湖は今から60年ほど前ですが、日本で初めて白鳥の餌付けに成功した湖です。そして当市は新潟県の酪農発祥の地で、飲むヨーグルトで知られているヤスダヨーグルトの製造が行われております。また、屋根瓦の生産が盛んで、産地の北限とも言われておりまして、北の方では安田瓦が多く使われております。五頭連峰の麓ではラジウム含有量の非常に高い温泉が湧出しておりまして、五大ラジウム温泉地が集まってサミットを開催しております。

先般新潟県が手がけたメガソーラー発電所が稼働しておりまして、民間事業者が手がけている２メガと合わせて19メガのソーラー発電が動いております。我々の自治体が作ったものではありませんが、自治体区分では全国で最大となっているようです。雪国でもソーラー発電はできるという実証のために県がやられたことですが、発電はできる、利益も上がるということを示すことができました。

最後に今後も阿賀野川は市民の憩いの場として、それから内水面漁業の振興も含め、これからも豊かな環境をしっかり守っていきたいと思っています。

歓迎交流会

首長サミットの終了後、同じく新潟グランドホテルを会場に歓迎交流会が開催されました。

篠田昭新潟市長の挨拶に続き、小俣篤国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長から乾杯のご発声をいただきました。

にいがた観光親善大使の金子知未さんから、新潟のお酒の魅力を紹介いただき、市内全15蔵元の代表銘柄が振る舞われました。

日本三大花街の一つとして200年の伝統を誇る新潟古町芸妓をご覧いただきながら、会場内でゆで上げた枝豆、郷土料理のっぺ煮、十全茄子、コシヒカリの塩むすびなど新潟の食をご賞味いただきました。

篠田　昭　新潟市長の挨拶

観光親善大使による新潟のお酒の魅力の紹介

市内全15蔵元の地酒コーナー

200年の伝統を誇る古町芸妓

会場内でゆで上げた枝豆

藤井　信吾　取手市長による中締め

9月5日(土)

時　間	内　容	会　場
8：00～ 9：00	ウォーターシャトル周遊視察	萬代橋西詰
9：10～ 9：40	全国川サミット in 新潟開会式 ●オープニングセレモニー （新潟下駄総踊り、永島流新潟樽砧）	新潟グランドホテル
9：50～10：50	**基調講演「水生生物からみる川の恵み」** 講師 池田清彦氏（生物学者／理学博士） 早稲田大学国際教養学部教授／山梨大学名誉教授	
11：00～12：00	**学校での取組み** ・万代長嶺小学校・岡方第一小学校	
12：00～12：20	サミット宣言～閉会式	

ウォーターシャトル周遊視察

会場となった新潟グランドホテル近くに乗降口がある、信濃川ウォーターシャトルは定期運行も行う水上バスです。サミット開催２日目の午前は、信濃川河口付近の町並みを水上から視察しました。

信濃川ウォーターシャトルは民間企業が運営する水上バス交通で、河口付近の新潟市歴史博物館みなとぴあから北陸自動車道新潟西IC付近の新潟ふるさと村までの間を定期運行。そのほかに遊覧貸し切りやイベントなど催しにも使われています。

この時の船内ガイドとして、井上清敬信濃川下流河川事務所長にご案内していただきました。

新潟グランドホテル前にある萬代橋西詰乗船場から乗り込みました。船の前方が上流で、萬代橋が見えます。

信濃川右岸には佐渡航路と北海道航路の港があるほか、新潟造船を始めとした造船会社も両岸に並んでいます。

水上バスからの眺めは徒歩や自動車からは見えない景色を見ることができます。国重要文化財萬代橋をくぐり、路面電車を橋へ通す予定だった名残である、電線を引いた痕跡を見上げます。

市街地の両岸に整備されたやすらぎ堤は勾配の緩やかな堤防。市民にとっては身近な憩いの場で、散歩やランニング、ウォーキングする姿がたくさん見られます。この日は水上でボートの練習をしている人がいました。

全国川サミット in 新潟　開会式

実施内容：第二日目2015年９月５日（土）　　会場：新潟グランドホテル

第24回全国川サミット in 新潟

オープニングセレモニー：新潟下駄総おどり＋永島流樽砧

開会挨拶：篠田　　昭 新潟市長

来賓挨拶：藤山　秀章 北陸地方整備局長

　　寺田　吉道 新潟県副知事

第24回全国川サミット in 新潟は、新潟下駄総おどりと永島流樽砧のアトラクションでスタートしました。

歓迎挨拶をした篠田昭市長がアトラクションを「かつて新潟の湊町では三日三晩踊り明かしたまつりがありましたが、明治政府になってから禁止された。何も伝承はされなかったのですが、江戸時代の絵や書物などを手がかりに再現を試みたのが下駄総おどりと樽砧です」と紹介しました。

来賓として挨拶に立った藤山秀章北陸地方整備局長は「治水はかつて、やればやるほど地域の人が川から離れていくという歴史がありました。今はすっかり心を入れ替えましたので、どんどん要望、提案してください」と挨拶。寺田吉道新潟県副知事は、今年始まる大河津分水の改修工事について「スタートできたことを感謝しています」と述べました。

下駄を履いて踏み鳴らしながら踊る新潟下駄総おどり

木槌で木樽を叩きながらリズミカルに舞う樽砧

篠田　　昭
新潟市長

藤山　秀章
国土交通省北陸地方整備局長

寺田　吉道
新潟県副知事

基調講演
「水生生物からみる川の恵み」

早稲田大学教授　**池田　清彦** 氏

生物ではなく生態系を保護する

群馬県がオオタニシやゲンゴロウ、オオモノサシトンボなど貴重な水生生物を守る条例を作ります。獲れば罰金、ひどいと懲役まであるのですが、先般講演に行った際、それでは守れませんよと申し上げました。行政は捕獲を禁止する条例を作ってあとは放置する。いなくなると人が獲ったと言うけれど、獲っているのはカラスかもしれない。条例は、人は守ることができますが、生き物には関係ありません。

琵琶湖でブラックバスが増え在来種が捕食されていますが、そうなった本当の理由はブラックバスを放したからではなく、琵琶湖総合開発です。コンクリート堤防によって小魚の育つ浅瀬の環境がなくなってしまった。日本は常に中国から外来種がやって来たので、外来種には耐性がある。これだけ騒がれて悪者にされていますが、ブラックバスによって絶滅した在来種はまだないのです。

生き物を守ろうとしたら、その生き物ではなく生育する環境、生態系そのものを保全するしか方法はありません。

生き物は微妙なバランスの上に立っている

私たちは普通に暮らしている中で突然窒息死するということはまずありませんね。しかし水生生物は溶存酸素量が一定の水準以下になると一気に全部死にます。水に毒物が入っても大量死する。

農薬ではフィプロニルが、散布しないで使えるのと効果が持続するのとで広く使われていますが、これはアカトンボを激減させる。ある調査ではこれを使用している自治体で、20年で1/1000に減ったという結果が出ています。ミツバチの大量死は原因がネオニコチノイド系と判明しました。EUは2013年に使用禁止にしましたが、日本は残留基準を13倍に緩和しました。ではフィプロニルやネオニコチノイドを使わなければそれで解決かというとそうではない。代替農薬は別の生物に影響を与えるかもしれないし、農薬を使わなかったら農業が成り立たない。生き物の世界はあちらを立てればこちらが立たずです。

外来種の問題も同じで、定着して数十年もすると日本の生態系に組み込まれてしまって、在来種の餌になっている生物もいます。この外来種を外来種だからという理由で駆除すると、これを餌にしている在来種も生きられなくなってしまう。

いま守るべき環境

原生林など、そもそも人の手が入っていない環境は人が入らなければ守れます。大きな湖沼はラムサール条約で守られる。いま絶滅が危惧される生物は、人の手が既に入った状態で成り立っている里山、里や市街地にある小さな湖沼にいる生き物たちです。ラムサール条約はなかなか賢くできていて、1に生態系を守る、2にワイズユース、3に教育啓蒙なんですね。2と3がなかったら1が実現できないという考え方でできています。人の暮らしとともにある生態系は、原理主義ではなくこの考え方で行くべきです。

そして川の話ですが、小網代（神奈川県）の環境保全をやっている友人の岸由二の偉いところは「流域思考」を言い出したこと。江戸時代に比較的日本の自然環境が守られたのは、幕府に流域思考があったためです。行政区では山から海まで続く川の環境は守れない。

オーストラリアの海に生息する魚と日本の近海に生息する魚は、意外なほど似通っていますよ。それは海が繋がっているから。しかし川は閉じているので多様性に富んでいる。そしてそれぞれの流域が異なる環境、異なるバランスの上に立っている。こういうところでは、他の川で成功した事例を別の川でやってもうまくいかないんです。その川をずっと見ている人、地域の研究者を大事にして、その川ごとに異なる対処方法を探していくべき。役人は上に行くほど個別の事例は見えなくなっていきますね。しかし川の保全は日本全体を見てはできないのです。

同時に川は人の暮らしも支えています。生き物と人の暮らしを両方守れるよう、原理主義ではなくワイズユース、サスティナブルにやっていくことが大事です。生物多様性を守るのですから、完全駆除が既に手遅れなブラックバスを悪者扱いして全部駆除することにこだわるのではなく、悪者や変なのもたまにいるのが多様性と考えてはいかがでしょうか。

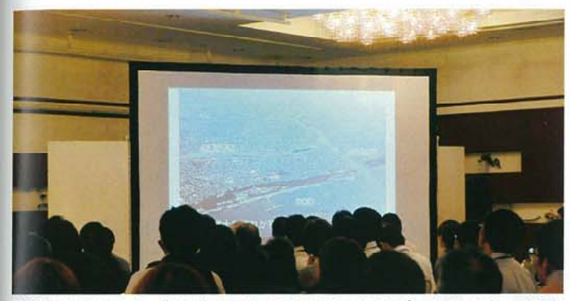
学校での取組み

万代長嶺小学校

信濃川下流に位置する万代長嶺小学校は、総合学習で萬代橋（4年生）、信濃川（5年生）を学び、6年生になるとそれまで学んだことを活かし信濃川キッズガイドとして活躍します。

この日の発表では6年生が春から学んできたことを発表。5月には大河津分水資料館（燕市）を訪ね、6月には萬代橋を見学、7月に関屋分水（新潟市）を訪ねて新潟シティガイドのガイド振りを見学しました。

それらを通して学んだことは「信濃川がたくさんの人の手に守られ、たくさんの恵みを人々に与えてくれていること」だそうです。そして11月の信濃川キッズガイド本番では「おもてなしの心で学んできたことを伝えたいです」と締めくくりました。



信濃川紹介映像（信濃川下流河川事務所提供）を上映後、児童による発表が行われました。

万代長嶺小学校代表児童の発表

岡方第一小学校

阿賀野川流域にある岡方第一小学校は、総合学習で阿賀野川の水が残した三日月湖、十二潟について調べています。今も農業用水として使われていますが、昭和の初め頃は、泳いだり魚釣りをしたりする子どもの遊び場だったそうです。

十二潟に生息する絶滅危惧種のアサザについては「とっておきの秘密があります」と会場にクイズを出題したり、アサザ役の子どもたちが登場して演劇形式になったりと、会場を笑いであふれさせる発表となりました。

阿賀野川紹介映像（阿賀野川河川事務所提供）を上映後、児童による発表が行われました。

これまで十二潟を学んで「未来に残したい大切な宝」であると気づいたそうです。そして「残せるかは僕たち次第。これからも活動を続けていきます」と声を合わせて発表しました。

十二潟クイズの様子

岡方第一小学校代表児童の発表

サミット宣言～閉会式

第24回全国川サミット in 新潟は、取り組み発表をした新潟市立万代長嶺小学校、岡方第一小学校の児童がサミット宣言を読み上げ、全国からの参加者や地域の人たちとともに、これからも川とある生活文化と安全を守っていくことを確認しました。

次いで篠田昭新潟市長から次回開催地の福島県喜多方市長にサミット旗を授与。山口信也喜多方市長は「第25回開催、四半世紀の節目に当市で開催できることを誇りとし、それにふさわしいサミットを開催したいと思います。来年、ぜひ喜多方市にお越し下さい」と挨拶しました。

サミット旗授与

サミット宣言

山口　信也　喜多方市長

参加自治体　記念撮影

第24回全国川サミットin新潟　共同宣言

信濃川は、長野県、山梨県、埼玉県の県境にある甲武信ヶ岳を源としています。長野県では千曲川と呼ばれ、新潟県に入ると信濃川と名前を変え、日本海に注ぐ、日本で一番長い川です。

阿賀野川は、福島県・群馬県に源流を持ち、福島県では阿賀川と呼ばれ、新潟県に入ると阿賀野川と名前を変え、日本海に注ぐ、下流部の流量が日本最大級の川です。阿賀野川は信濃川とともに、広大な越後平野を作った河川です。

「第24回全国川サミットin新潟」は、信濃川・阿賀野川の恩恵により栄えてきた新潟市を会場に「川が創った大地　～水と土が紡ぐ歴史～」をテーマに開催しました。

水と土と共に生き、歴史・流域文化を育んできたことを再認識し、これからも川と共生した地域づくりに取り組んでいくことを誓い、ここに宣言します。

○わたしたちは、川と築いた歴史や文化を大切にして、次世代へ引き継ぎます。

○わたしたちは、多くの生き物が共に生きる環境づくりに取り組みます。

○わたしたちは、様々な活動を通して、川に興味を持ち、川を愛する心を育みます。

○わたしたちは、川と生きる自治体どうしの交流を深め、人と人とのつながりを全国に広げます。

○わたしたちは、安心・安全に暮らせるように、災害に強い地域づくり、川づくりに取り組みます。

平成27年９月５日

第24回全国川サミットin新潟参加者一同